

付録3 国立感染症研究所ウイルス性出血熱実地疫学調査における個人防護具の着脱

1人分の準備物品

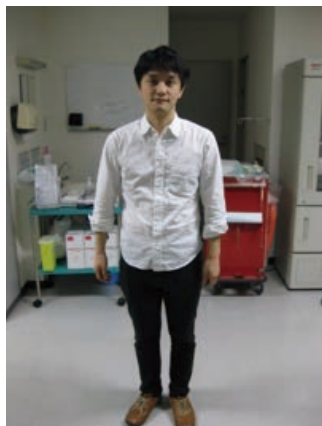


1. つなぎスーツ1つ
2. 足カバー1組
3. N95マスク（装着者に合ったサイズ）1つ
4. ゴーグルと曇り止め、又はフェイスシールド1つ
5. 手袋2組
6. アイソレーションガウン1つ（無くてもよい）
7. 長靴1組
8. 椅子2脚
9. ゴミ箱・ゴミ袋
10. 0.5%次亜塩素酸ナトリウム入りの霧吹き1つ又は湿らせたガーゼ
11. 擦式アルコール製剤1つ

着る場合の手順

(1) 装飾品を外し、軽装となる。トイレを済ませ、十分水分補給しておく。

- ・髪が長い場合、前髪はピンで留め、髪は後頭部中央でしっかり束ねる。髪はキャップでもまとめてよい。
- ・椅子が置いて、着替えられるような着脱場所を確保する。



(2) つなぎスーツを装着し、ファスナーを首まで上げる。補強シールを止める。



(3) 靴を脱ぎ、足カバーを着ける。

- 必要に応じ、椅子に腰かける。
- 紐が付いているタイプの足カバーの場合は紐を結ぶ。



(4) N95 マスクを装着する。

- キャップを使用している場合、キャップの上から装着する。
- 鼻梁に隙間のないよう調節する。
- 鼻梁のワイヤー（金属の部分）を指先で押さえつけ、自分の鼻の形に合わせる。
- ゴムはクロスさせない。
- 両手でマスクを覆い、息を強く出し空気が漏れていないか、息を吸って陰圧（マスクが吸い付く感じ）があるかユーザーシールチェックを行う。



(5) つなぎスーツで頭部を覆う。

- 補強シールを剥がして貼り、首の部分がしっかり覆われ露出していない事を確認する。
- 髪が出ないようにする。
- しっかり覆うことが大切なので、パートナーに覆ってもらい、自分でも鏡で確認する。



(6) インナー手袋（内側）を着ける。

- ・つなぎスーツの袖の外側をインナー手袋でしっかりと覆う。



(7) 対象者の状態に応じ（嘔吐有の場合など）、アイソレーションガウン（耐水性ディスポザブルガウン）を着る。

- ・ガウンの後ろ側が開いたままとならないように、介助者に確認してもらう。
- ・紐は出来るだけ側腹部で結ぶ（補：脱ぐ時に解きやすく、感染のリスクが低くなる）。



(8) 長靴をはく。



(9) ゴーグルに曇り止めを塗り、装着する。

- ・水中メガネタイプのゴーグルはゴム部分を調節し緩みがないことを確認する。
- ・日常で眼鏡を使用している人は、ゴーグルを外す時に眼鏡がずり落ちてこないよう、中央部分をテープで額に固定するとよい。

* フェイスシールドを採用した場合にはこのステップは省略する。



(10) フェイスシールドを装着する。

- ・ゴーグルを採用した場合にはこのステップは省略する。



(11) アウター手袋（外側）を着ける。

- ・つなぎスーツまたはアイソレーションガウンの袖の外側をしっかりと覆う。



(12) 完了。



脱ぐ場合の手順

重要点1：本項の以下の手順は必ず2人で行う。

重要点2：各手順が確実にできていることを介助者が確認しながら脱着する。介助者は手袋をする。

(1) 椅子、ゴミ箱・ゴミ袋、0.5% 次亜塩素酸ナトリウム入り霧吹き／ガーゼ、擦式アルコール製剤を着脱場所に準備する。

(2) 次亜塩素酸ナトリウムを噴霧してもらい、あるいはガーゼでアウター手袋の上から手を消毒する。手袋に付いた病原体を少しでも失活させるためである。

- ・脱衣のプロセスで汚染された場合には、その都度消毒する。



(3) アイソレーションガウンを引き剥がすようにして脱ぎ、一緒にアウター手袋を脱ぐ。

- ・ガウンは中表に裏返ししながら、丸めるように脱ぐ。
- ・ここでアウター手袋は先に外さず、一緒に外せるように脱いでいく。
- ・最後に手袋を外せるようにする。
- ・アイソレーションガウンを着ていない場合、アウター手袋のみ脱ぐ。
- ・脱いだものはゴミ袋に破棄する。



※アイソレーションガウンなしの場合



(4) フェイスシールド又はゴーグルを外し、ゴミ袋に破棄する。

- ・汚染された可能性がある前面は触れないようにする。
- ・つなぎスーツの頭部分になるべく触れないようにする。
- ・ゴーグルは、メガネタイプは耳かけの部分を、水中メガネタイプは後頭部のゴムを持って外す。



(5) 椅子に座り、長靴を脱ぎ、足カバーの状態になる。



(6) 次亜塩素酸ガーゼでインナー手袋の表面を拭く。

手袋に付いた病原体を少しでも失活させるためである。



(7) つなぎスーツの帽子部分をとる。



(8) つなぎスーツのファスナーを腰部分まで降ろす。

- ・補強シールは分かりにくく、探しているうちに顔を触ってしまう可能性があるので、介助者に示してもらるか、剥がしてもらう。
- ・介助者はつなぎスーツを触ったら手袋を脱ぎ、擦式アルコール製剤で手指消毒をする。



(9) つなぎスーツを、中表に裏返ししながら丸めるように脱ぐ。

- ・手袋は先に外さず、一緒に外せるように脱いでいく。
- ・腰の部分まで脱ぎ終わったら、別の清潔な椅子に座り、足の部分を脱ぐ。
- ・丸めながら足カバーまで一緒に脱ぐ。
- ・最後に手袋ごと外し、手袋とつなぎスーツを一体として破棄する。





(10) 擦式アルコール製剤で手指消毒をする。

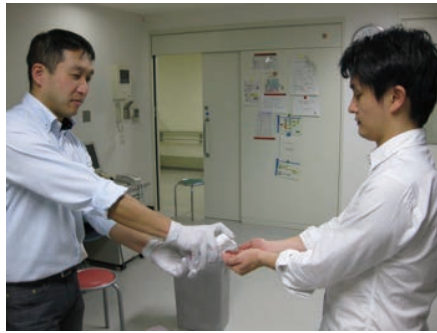


(11) N95 マスクを、バンドの後ろの部分を持ち外す。

- ・まず下のバンド、次に上のバンドの順番で外す。
- ・脱ぎにくいタイプでは、再度手袋をつけた片方の手でマスク前面を抑えながら外す。



(12) 擦式アルコール製剤で手指消毒をする。



(13) 終了。

第1稿 2014年 11月 11日
国立感染症研究所感染症疫学センター